

新企画「お金を払ってくれる方の話を聞こう（仮題）」について

2018年7月22日

ケイゾクエナジー 近藤大介

概要

話し手になりたい方に、開催経費（茶菓代・資料代・人件費等）をご負担いただき、そのお礼に聞き手が集まって話し手の話を聞く仕組みです。ただし、あまりに聞くに堪えない話は途中終了・一部返金の可能性があることを前提にします。

話し手になるには

1つの話し枠5分につき50～200円×聞き手人数分をお支払いいただける方に、好きなことをお話しできる場を提供します。年齢や国籍等は問いませんが、話し言葉か資料のいずれかを日本語とすることを必須とします。

話し枠を束ねて一つの会に仕上げる

話し枠10なら、50分をお話の時間に回し、同じく50分を質疑応答や時間調整の余白とすれば、ちょうどいいぐらいになります。「聞き手」10名だとしても、500～2000×10で0.5～2万円になるので、茶菓代と場所代ぐらいは確保出来ます。

聞き手から参加費を取る場合

例えば、「話し手」様から一番高い1枠5分200円のご負担があれば、会場費次第では全員無料どころか、学生に交通費を支払ったりできます。

一番安い1枠5分50円単価なら、会場の確保が難しいケースもありますので、25歳未満は無料として、25～39歳は300円、40～54歳500円、55歳～69歳700円、70歳以上はまた減らして500円ぐらいと、多少の参加者負担を見込みます。外国籍者は、通訳なしを条件に一律無料にしましょうか。

開催経費を引いて、余剰金が出た場合は

スタッフ交通費、有給スタッフがいればその人件費（当面ないけど）、懇親会に回します。

話が面白かった場合は、カンパを

聞き手が、話し手の提供する知識や情報、話しぶりなどに感動した場合は、カンパが可能です。カンパ次第では、話し手にお支払いいただいた額を超えることもあるでしょう。

さらに面白い話し手には

次回以降は、お支払いいただく形ではなく、ちゃんと講師としてお招きすることも検討します。

聞くに堪えない話題への対処策として

聞き手には、「止め札」をあらかじめ持ってもらいます。これ以上話を聞きたくない時に「止め札」を挙げてもらい、その後は退場も可能です。「止め札」を挙げた方が、もとの聞き手の4分の1なり3分の1なりを超えれば、該当の話し枠は強制終了とします。公序良俗に関わる内容以外であれば、残りの枠分は返金してもいいでしょう。

というわけで、以前にご紹介した話し手・聞き手などの役割をあらかじめ縛ってみる「ケイゾクトーク」システムの発展版とも言えます。再エネ制度に対抗して、『話し枠買取システム』とも表現したいです。

思い付きをまとめただけです。表現の語弊や内容そのものに矛盾もあるかと思えます。皆様と色々練っていければと考えております。

もしご興味のある方は、お声かけいただければ幸いです。

以上